

2025 年 4 月 3 日

「学長のことば」

中 野 敬 一

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
またご家族、ご関係の皆様、本日は誠におめでとうございます。

桜が満開の美しいキャンパスに皆さんをお迎えし、予定通り入学式を開催できることを嬉しく思います。コロナ禍はすでに過去の出来事になりつつありますが、あのとき、私たちは当たり前だと思っていたことが決してそうではないということを再認識しました。入学式ができなかった時のことを思い出すと、今日の日は文字通り「有難いこと」なのだと感謝の思いに満たされます。そして、新入生の皆さんがこの場で新しい出会いが与えられることをとても嬉しく思っています。

さて、神戸女学院大学は、今から 150 年前の 1875 年、アメリカから来日した二人の女性宣教師イライザ・タルカット、ジュリア・ダッドレーの両先生により創立されました。今年は創立 150 周年の大きな節目であり、新入生の皆さんはその記念すべき年に入学されたのです。

この長い歴史において、学院で変わらず大切にされてきた言葉があります。学院の永久標語である「愛神愛隣」です。「神を愛し、隣人を愛する」という意味です。皆さんには、在学中にこの標語の理解を徐々に深めていっていただきたいと思いますが、いま、簡潔に申しますと、「聖書の言葉に耳を傾け、神の前に謙虚でありなさい。そして、自分自身を隣人の喜びのために用いなさい」という意味になります。

先ほど、神戸女学院大学の創立者イライザ・タルカット先生、ジュリア・ダッドレーの名前を出しました。お二人は神戸女学院が創立された 2 年前の 1873 年に来日されています。当時の日本は鎖国から開国して明治時代になったばかりの頃です。アメリカからやってきた人々にとっては、決して暮らしやすい環境ではありませんでした。特に、キリスト教の教えを伝えることは二人が来日する直前まで禁止されていました。つまり、命の危険もあったということです。

それでもタルカット、ダッドレーのお二人は、日本の女子教育のために力を尽くされたのです。先生たちからいろんなことを「学びたい、教えてほしい」と願った「隣人」のために学校を創立し、その維持・発展のために努力されました。

お二人だけではありません。後に続いた宣教師たちも同様に献身的な働きで神戸女学院の教育を発展させられました。アメリカから来た彼女たちにとって日本は遠い異国の地で、情報を得るのが困難な時代ですから、不安や戸惑いも大きかったでしょう。それでも自分たちを求める「隣人」の声に応えられたのです。

わたしたちはこのように「愛神愛隣」を実践された宣教師たちの業績を通じて、多くのことを教えられています。それは、自分が得た知恵や知識、経験を隣人の喜びや幸せのために用いる人になりなさい、という教えです。

ただし、それは直ちに偉大な宣教師たちのようになることを目標とせよ、ということではありません。私たちは宣教師だけ注目しがちですが、その背後には無数の協力者がおられたことを忘れてはならないのです。宣教師を日本に送るには費用がかかります。またその活動資金も必要です。継続して活動をサポートする人がたくさんおられたのです。

大学には建物が必要です。学び舎の建設資金はアメリカの教会の人々からの献金でした。それぞれのお名前はわかりませんが、訪れたこともない、直接的な知りあいもない日本という国の、神戸女学院という学校が助けを求めているなら、と多くの人が募金に賛同してくださったという事実があります。資金面だけでなく、物心共に協力してくださった方々がおられました。そのすべての人たちの思いや行動も「愛神愛隣」の具体的行為なのです。

私たちは、学生の皆さんが学ぶことで、それぞれの知恵や知識が増し、豊かな教養と経験を身につけられることを期待しています。それは皆さんの人生を支える力となるからです。どうか、その学びが、自らのためだけでなく、これから皆さんが会う「隣人」のため、社会のため、世界のために用いられるということを憶えて、意欲的に学んでください。

皆さんの成長のために本学は素晴らしい学修環境があります。岡田山の豊かな自然と国指定の重要文化財であるヴォーリズ建築の校舎を抱くキャンパスにおいて、少人数教育で教職員が細やかな指導やサポートを行います。女学院には先輩や友人、後輩と共に励まし合い、支え合う学風もあります。皆さんの掛け替えのない学生時代を支えてくれることでしょう。

皆さんの将来を支える土台をこの神戸女学院大学で強固なものにしてください。ぜひ受け身の姿勢ではなく、積極的に関わろうと努力してください。私たち教職員はその姿勢に全力で応えてまいります。お一人おひとりの貴重な大学時代が素晴らしいものとなりますよう、皆さんの前途に神の祝福を祈りつつ、「学長のことば」といたします。